

済生会大牟田病院 広報誌

なでしこ

SAISEIKAI OMUTA HOSPITAL SEASONAL REPORT

Vol.

7

2025.11

SPECIAL ISSUE

済生会大牟田病院の
お医者さん

教えて!

Doctor

特集

循環器内科

松下 哲也 医師



医療の入口として、温かく丁寧にご案内します

医事課

Medical Affairs Division

安心と信頼を胸に、今日も地域の皆さまを支えます



笑顔と気配りで、安心できる療養環境を届けます

看護助手

Nursing Assistant

<https://omuta-saiseikai.jp>

第2回 済生会フェア

医療と福祉の
輪を広げよう

IN
大牟田

入場無料

11月22日土

10:00~
15:30
(9:30開場)

会場 済生会大牟田病院

働くクルマの展示ほか
体験・イベントがたくさん!

(詳しくは中面「TOPICS」をご覧ください)



日常生活から見直し 機能回復を図る心臓リハビリテーション

当院の循環器内科では、心不全や将来的に心不全のリスクがある方を対象に心臓リハビリテーションを行っています。適切な運動療法は、心臓の機能回復のほか自律神経のバランスを整える効果もあるといわれています。合わせて日常の食事や生活改善についても学んでいただき、効果の継続を図ります。



済生会大牟田病院の
お医者さん

教えて! **Doctor**

今回話をお聞きしたのは
循環器内科の松下哲也医師。
現在急増しているという心不全について
また治療にあたる医師としての思いも
語っていただきました。



そうなる前に 関わる・守る大切さ

SAISEIKAI OMTA HOSPITAL
SEASONAL REPORT
Special Issue

実は心臓だけじゃない 循環器内科の領域

「循環器内科」と聞くと、心臓の重い病気を扱うイメージがあるかもしれませんが。しかし診療の現場では、より幅広い疾患を診ているそうです。「不整脈や心不全、狭心症、心筋梗塞など、心臓と血管を専門とした疾患を診療しますが、これらの病気に至る前の段階の、生活習慣病から介入することが多くなっています。高血圧や脂質異常症（高コレステロール血症）、糖尿病などです」と語る松下医師。特に高血圧は、40代以上の比較的若い人が健康診断で再検査となつて来院することも多いといいます。「その場合、自覚症状がないため薬を飲み始めることに抵抗がある方もいらっしゃると思います。しかしこの無症状の期間に対処することがとても重要なのです。10年、20年先に重い病気が起こり得るということを丁寧に説明し、理解していただいた上で一緒に治療に臨んでいます」。

心不全とはどんな病気？ 高血圧との密接な関係

近年は高齢化の影響もあって心不全にかかる人が

急増しています。「心不全とは、心臓のポンプ機能に不具合が生じた状態を指します。自分で気が付きやすい初期症状の一つは息切れです。階段を上るときなど、これまで気にならなかった動作で息切れや動悸がするときは注意が必要です。また、足のむくみも重要なサインです」と松下医師。「むくみはその他の要因も考えられますが、心不全の症状の一つでもあります。心臓のポンプ機能が低下すると、抹消に送り出された血液が心臓に戻りにくくなり、重力の影響で下肢に水分や血液が停滞してしまい、むくみが出てきます」。

松下医師は、高血圧と心不全には密接な関係があるといいます。「高血圧から心不全となる患者さんは非常に多いです。高血圧によって血管が硬化し、高い血圧に対応するため心臓肥大が進行すると、他の臓器へ血液を十分に届けられなくなるのです。心不全の状態になると根本的な治療は難しく、進行をいかに遅らせるかがカギとなります。ですから、私たちはそうなる前の段階で介入し、心不全の状態にしないことを目標にしています。高血圧の治療は、心不全になる人を減らすための治療といえます」。



「忙しさを気遣ってあまり話さずに帰ってしまう人もいます。観察や声掛けはとても大切」という松下医師。

やはり毎日の食事と生活習慣が重要とのこと。「特に大事なのは減塩です。塩分摂取量が多い人は、治療に臨んでも血圧コントロールが難しくなります。普段から適切な塩分摂取量と、体重管理も心掛けていただきたいですね。肥満は高血圧だけでなく、他の生活習慣病のリスクも高めます」。

福岡県済生会大牟田病院

循環器内科

松下 哲也 医師
Dr. Tetsuya Matsushita

Profile | まつした・てつや |

長崎県出身。2000年、佐賀大学医学部卒業。2010年から済生会大牟田病院に勤務。循環器内科全般の入院、一般・救急外来を中心に従事する。2年前に大牟田市に移住。まちを散歩するのが休日の楽しみ。

専門医として真摯に向き合う これからも

松下医師が患者と接するとき大切にしていることは、限られた時間の中でも「症状を聞き逃さないこと」。診察室に入ってくるときの歩き方、椅子に座った時の息遣い、話し方など、小さな変化にも注意を払うそうです。前回の様子と変わったところはないか、少しでも気になることはないか。もし自分が気付かなかったら、次の診察まで放置することになる。25年間循環器内科医として歩み、培われた感覚は、わずかな異変も見逃しません。「患者さんは全てを言葉で伝えられるわけではないですからね。心臓は生命に直結する臓器。年齢を重ねるとどうしても心臓の疾患は増えてきますから、高齢化が進む中で、専門医として診療に携わっていることにやりがいを感じています」。

これからの医療について、医師としての思いも聞きました。「今後は退院後の生活支援や、継続的な医療の提供をより充実させることが重要だと思っています。訪問診療や訪問リハビリなど、住み慣れた環境での暮らしを続けられる支援を充実させていく必要がありますね。大牟田は全国的に見ても高齢化が進んでいます。高齢社会の先を行く地域が、どのような医療を提供しているのか、他の地域のモデルケースになれる仕組みが作れたらいいなと思っています」。



3兄弟の診療所が並ぶ建物 始まりは父の小児科医院

大牟田市吉野地区の住宅街にたたずむ「中山内科・小児科医院」。同じ建物には「中山眼科」「中山歯科」が並んでいます。「昭和40年ごろ、父がここで小児科を開業しました。それを私が受け継いだわけですが、2人の弟もそれぞれ眼科医・歯科医として開業することになり、平成11年に3人同時に現在の名称で開業しました」と中山院長。3つの診療所が同じ場所にあるのは来院者にも好評のようです。

「父の時代から通院していた子どもさんが大人になって、今度は自分の子どもを連れてくる方もいらつしますが、今は大半が成人の患者さんです。昔からかかりつけにしている方も多く、高齢のために通院できなくなった方には訪問診療もしています」。訪問診療は、自宅で最期を迎えたいと望む人にとっても大切な医療。週4日、医院での診療の合間を縫って往診に出掛けている中山院長は、需要が増えているのを実感しているそうです。

増えつつある訪問診療は 他医療機関との連携がカギに

「訪問診療は、退院後の在宅療養計画などを病院と綿密に調整し、開始後もスムーズな連携を続けることが重要です。その面では済生会大牟田病院の訪問看護ステーション



Hospital-Clinic Collaboration

連携病院の紹介

世代をわたり築いた信頼
思いは診療所の枠を超えて
地域に安心を届ける。

中山内科・小児科医院
大牟田市吉野



3つの医院にはシンボルカラーを設定。眼科は青（瞳）、歯科は黄色（歯）、内科・小児科は血液をイメージした赤。

「中山内科・小児科医院」の中山浩院長は、医院での診療のほかに訪問看護ステーション「なでしこ」と連携し、訪問診療にも従事しています。

時に休日も患者の相談に応じる、多忙な日々を支えているのは…。

『なでしこ』の皆さんとの協力体制が不可欠で、非常に助かっています」という中山院長。訪問診療で利用できる医療機器は限られるため、患者の状態によっては早急に基幹病院へ搬送する必要があります。「済生会大牟田病院は、緊急時の受け入れも迅速に対応してくれるのでありがたい存在です」。

患者のもとへ赴く父の記憶 その思いを受け継いで

地域の小学校の校医や、保育園・幼稚園での健康診断も長年従事。多忙な日々を送りながら、休日や夜間でも、かかりつけの患者から電話がかかってくれば相談に応じているとのこと。「長く診ている方や、気になる方の電話番号は携帯電話に入れていて、できるだけ対応するようにしています」と中山院長。なぜそこまで…と思わず出た問いに「何かあった時に言伝えてくれたら、助けられることもありますから」と笑顔。「私が子どもの頃、小児科医の父のもとには急な連絡がよくありました。休日でも夜中でも、電話が鳴れば往診に出掛けていましたね。その姿が心に残っているんですよ」。

何かあれば頼れる医師の存在は、地域の人には大きな安心。頼れる医師として、ときには橋渡し役として、周囲のさまざまな医療機関と協力しながら、中山院長は今日も地域の患者を見守っています。



【中山内科・小児科医院】
大牟田市吉野 950-1 TEL.0944-58-0025
内科・小児科・循環器科・呼吸器科・
消化器科

恵愛まつり

10月18日に障害者支援施設大牟田恵愛園で「第39回恵愛まつり」が開催され、当院より12名のスタッフが参加しました。当日は小雨が降る中でしたが多くの方が来場され、当院のブース「青空健康チェック」にも100名超が参加され、骨密度、血管年齢、インボディアの測定を行いました。地域の住民の方との交流もでき有意義な時間となりました。

（事務部総務課／松岡 健）



世界糖尿病デー

11月14日は世界糖尿病デーです。世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために、IDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定しました。当院では11月4日から17日まで、シンボルカラーの「ブルー」で建物をライトアップします。職員一同で糖尿病啓発の思いを込めて行っています。お近くにお越しの際はぜひご覧ください。

（外来看護部／古賀 寛子）



「第2回済生会フェア」開催のお知らせ

今年の11月22日に第2回済生会フェアを開催します。昨年は雨模様にもかかわらず、1300名を超える方々にご来場いただき大盛況となった済生会フェア。様々な企画を通じ地域の皆様と楽しいひとときを過ごす事ができました。今年も地域の皆さんと笑顔で過ごせるひと時を願い、「第2回 済生会フェア」を開催いたします。今年は企画を大型アップデートし、市内の幼稚園児や中高校生による催し物、働く車コーナー、ステージでのマジックショーなど楽しんでいただけるような企画を多数用意しております。また健康チェック、看護師体験など病院ならではの企画もご用意。楽しく参加していただき当院の事を少しでも知っていただければ嬉しく思います。ぜひご家族、ご友人と一緒に遊びに来てください。（事務部総務課／松岡 健）

【日時】令和7年11月22日 土曜日

【時間】10時～15時30分

【場所】済生会大牟田病院 駐車場／一階フロア

寒い冬こそ、運動のススメ！

2022年 大腿骨近位部骨折患者数



日本整形外科学会のデータより

「寒いから動きたくない！」そんな話もよく伺います。

気温が下がり、お散歩に出るのも億劫になる季節ですが冬は転倒のリスクも高まります！



左のグラフは高齢者の転倒による骨折に多い大腿骨近位部骨折の月別患者数です。冬に転倒リスクが高まる要因として、絨毯の毛足が長くつづく、厚着することで動きにくくなる、路面凍結といった環境面の要因と、気温の低下による筋肉の柔軟性の低下が挙げられます。

気温の低下により筋肉が収縮。血管も収縮するため組織への血流量が低下する。

血流が滞ることで末梢の筋温度が下がり硬くなって柔軟性が低下する。

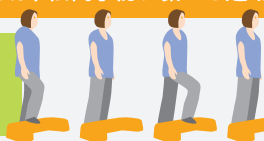
動かそうとするが筋肉が硬くなっているのうまく動かない。転倒！

そのため、転倒を予防するには運動して筋肉に血流を回すことが重要！

ここでは、転倒予防に繋がる運動をご紹介します。

お家でできる
簡単
セルフエクササイズ

1
ステップ運動



足は交互に！
台の上では両膝を
しっかり伸ばして

【頻度】10分～20分/回 1日に1～2回

【方法】リズム良く、階段や段差を利用して昇ったり、降りたりを繰り返します。少し息が弾むくらいのペースで行いましょう。

2
足踏み運動
(椅子座り)



【頻度】1セット10～20回 1日に2～3セット

【方法】椅子に座り太ももを持ち上げるように足踏み運動を行いましょう。

冬こそ運動して
転倒を予防しましょう！

立っての運動が
不安定な方は
コチラ

（リハビリテーション部 理学療法士／稲吉 直哉）

事務部施設用度課

課長

小柳 久

Hisashi Koyanagi



前 職では市職員として保健所に勤務し、感染症対策や予防接種の推進、新型コロナウイルスへの対応、豪雨災害時の支援業務など、地域の健康と安全を守るための業務に従事してきました。行政と現場の橋渡し役として、住民の皆様との丁寧なコミュニケーションを心がけながら、業務対応に努めてきました。令和7年4月より大牟田病院に入職し、これまでの行政事務の経験と住民対応を通じて得た視点を生かしながら、笑顔を大切に、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

事務部経営企画課

課長補佐

大園 晶洋

Masahiro Ozono



令 和7年9月に済生会二日市病院から異動してまいりました。これまで経営コンサルタントとして医療機関の経営改善や組織運営の支援に携わり、その後は用度課・経営企画課にて、医療材料の共同購入やコスト削減、経営分析などに取り組んでまいりました。これまでの経験で得た知識や視点を生かし、職員の皆さんと力を合わせながら、より良い仕組みづくりや働きやすい環境づくりを進めていければと思っています。明るさと行動力を大切に、積極的に現場にも足を運びながら、皆さんと一緒に、これまで以上に地域から信頼される病院づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

臨床工学技士

河又 智寿

Tomohisa Kawamata



本 年度より済生会大牟田病院に入職いたしました。臨床工学技士の河又です。現在は内視鏡業務、高気圧酸素業務、人工呼吸器業務、医療機器管理業務を担当しています。検査や治療を受けられる患者様に安心・安全な医療を提供できるように日々専門知識や技術の取得に励んでおります。まだ未熟な点も多いですが、責任感を持って業務に励み、周囲と協力しながら成長していけるよう努めて参ります。

外来診療担当医師一覧表

(2025年10月現在)

【外来受付時間】午前 8:00～11:30 午後 13:00～16:30

【予約受付対応時間】平日13:00～17:00(各科外来にて承ります) ※急患、当日予約、キャンセルはこの限りではありません。

診療科		月	火	水	木	金
胃腸内科 放射線科	午前	松岡 賢／松岡 大介	稲吉 康治／田淵 史典	稲吉 康治／船越 禎広	松岡 賢／田淵 史典	稲吉 康治／松岡 賢
	午後	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典	松岡 賢／田淵 史典
	内視鏡	廣瀬 靖光	廣瀬 靖光	久能 由記子	廣瀬 靖光	高田 珠里
内科	午前	永迫 久裕	丸山 健伍	蓮尾 友里	岩屋 智加予	児嶋 隆
	午後	菊池 真介	丸山 健伍	蓮尾 友里／永迫 久裕	津村 健二	古賀 翠(～16:00) 岩屋 智加予(16:00～)
呼吸器内科(禁煙外来)	午前			田尻 守弘	津村 健二	児嶋 隆
	午後			田尻 守弘	津村 健二	
循環器内科	午前	松下 哲也	松下 哲也	松下 哲也	松下 哲也	松下 哲也
	午後	松下 哲也／上拾石 秀一		松下 哲也	上拾石 秀一	松下 哲也／上拾石 秀一
内分泌・糖尿病内科	午前	岩屋 智加予／丸山 健伍	古賀 翠(～12:30) 永迫 久裕	岩屋 智加予	岩屋 智加予／永迫 久裕	古賀 翠／山下 陽
	午後	岩屋 智加予		岩屋 智加予／永迫 久裕	丸山 健伍(14:00～) 甲状腺細胞診	古賀 翠(～16:00) フットケア診療
膠原病内科	午前					古賀 琢真
	午後					川本 優美
脳神経内科	午前	菊池 真介	藤本 浩		菊池 真介	
	午後	菊池 真介	菊池 真介			
外科	午前	福田 純也	津福 達二	内田 信治／末吉 晋	福田 純也 唐 宇飛(第1,3,5)	津福 達二／末吉 晋
	午後	定例手術(急患の場合はご相談ください)				
ペインクリニック	午前		古野 晋堂			
泌尿器科	午前	豊澤 徳行	手術	豊澤 徳行	豊澤 徳行	豊澤 徳行(予約・再来のみ)
	午後	結石破砕術	手術	結石破砕術・検査	手術	
整形外科 リウマチ科 リハビリテーション科	午前	古畑 友基 上田 淳 竹下 修平	竹下 修平／上田 淳	古畑 友基 野崎 修(9:00～12:00)	古畑 友基／竹下 修平	上田 淳 石井 英樹(第1,3,5) 野崎 修(第2,4)
	午後				【脊椎外来】 前田 和政(第1,3)(14:30～)	
定例手術(急患の場合はご相談ください)						
脳神経外科	午前					江藤 輔聖
婦人科	午前		佐賀大学より(9:00～13:00)	鋤本 祥子(9:00～13:00)	佐賀大学より(9:00～13:00)	鋤本 祥子(9:00～13:00)
	午後					
健診センター	午前	魚住 淳	本廣 賢子	魚住 淳	魚住 淳／本廣 賢子	魚住 淳

「無料低額診療制度」のご案内

医療費でお困りの方はご相談ください。

お問い合わせ先 | 地域医療連携室

【発行】2025.11.15

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 福岡県済生会大牟田病院
大牟田市田隈 810 TEL.0944-53-2488(代表)

<https://omuta-saiseikai.jp>



公式Instagram



公式ホームページ